

第三章

第五節

西洋医学への扉を開けた「解体新書」

～身体のしくみを正しく伝えた日本初西洋医学の翻訳書～

人体の内部を観察するための「解剖^{かい ぼう}」は、当時の日本ではタブーでした。中国伝来の「五臓六腑^{ご ぞう ろっ ぷ ず}図」も、空想の部分が多く、人体内部はまだ未知の世界でした。

そんな中、蘭方医^{すぎ た げん ぱく}「杉田玄白」は、西洋の人体解剖図を目にして大きな衝撃を受けました。「東洋人と西洋人は体のしくみが違うのだろうか？」そう思わせるほど、それまでの常識とかけ離れていました。

玄白らは、辞書のない中、日本で初めての西洋医学の翻訳書^{ほん やく}「解体新書」を発刊します。これが火付け役となり、その後、続々と蘭書の翻訳本が発刊され、西洋の学術・文化を研究する蘭学へと広がっていきましました。

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.